

2026

4-5月

はしかけニューズレター

2026年度 第1号 通巻188号

2026年(令和8年)4月10日発行

編集・発行: 滋賀県立琵琶湖博物館 環境学習・交流係 (はしかけ担当職員: 島本・中村・太尾田)

住所: 〒525-0001 滋賀県草津市下物町1091 電話: 077-568-4811 ファックス: 077-568-4850

電子メール: hashi-adm@biwahaku.jp 琵琶湖博物館ホームページ: <https://www.biwahaku.jp/>

～ 目 次 ～

1. 事務局からのお知らせ

2. はしかけグループの活動報告と活動予定

- (1) うおの会 (2) 淡海スケッチの会 (3) 近江はたおり探検隊
 (4) 大津の岩石調査隊 (5) 温故写新 (6) 暮らしをつづる会 (7) 古琵琶湖発掘調査隊 (8) 里山の会
 (9) 植物観察の会 (10) たんさいぼうの会 (11) 田んぼの生きもの調査グループ
 (12) ちこあそ(ちっちゃなこどもの自然あそび) (13) 琵琶湖の小さな生き物を観察する会 (14) びわたん
 (15) ほねほねくらぶ (16) 緑のくすり箱 (17) 虫架け (18) 森人 (19) 琵琶湖梁山泊 (20) サロン de 湖流
 (21) 水と暮らし研究会 (22) 内湖を知ろう会

3. はしかけさんが活躍する琵琶湖博物館イベント情報(4月～5月)

4. 生活実験工房からのお知らせ

5. その他の事項

会員数 … 390人

グループ数 22グループ

(2026年4月10日現在)

1. 事務局からのお知らせ

春光まぶしい季節となり、はしかけ活動にも新しい息吹が感じられる頃となりました。皆さまの積極的なご参加に支えられ、今年度も活気ある活動が広がっていくことを願っております。今年度のはしかけ担当は島本 多敬学芸員です。事務局メンバー一同、皆さまの活動が実りあるものとなるようサポートしてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、以下事務局からのお知らせです。

■はしかけ制度会員登録の更新手続きについて

昨年度末は会員登録の更新手続きにご協力いただき、ありがとうございました。

まだ更新手続きがお済みでなく、2026年度も継続して「はしかけ」活動を希望される方は、更新手続きが必要となります。昨年度末に送付しました「更新受付票」の返送と、ボランティア活動保険への加入をお願いします。

なお、ボランティア活動保険について、4月以降に更新を希望される場合は、博物館での代行加入手続きは行っていません。お近くの社会福祉協議会(市・町・県)にて、個人で加入手続きを行ってください。その際、「主な活動内容」欄には「琵琶湖博物館 はしかけ 観察会・課外活動」、「主な活動場所」欄には「琵琶湖博物館」とご記入ください。すでに他団体でボランティア保険に加入されている方は、新たな加入は不要です。

4月以降の更新手続きは、希望者が一定数まとまった段階で実施します。そのため、更新受付票をご返送いただいたから会員証等をお送りするまで、1か月程度お時間をいただく場合がありますので、ご了承ください。

■2026年度はしかけ会員登録講座のお知らせ

2026年度のはしかけ会員登録講座を、以下の日程で開催予定です。お近くで「はしかけ」にご興味をお持ちの方がいらっしゃいましたら、お知らせ頂けると幸いです。

月	日	曜日	講座名	申込受付期間
5	24	日	オンライン講座 5月(5/24～6/7)	3/24(火)～5/22(金)
9	6	日	オンライン講座 9月(9/6～9/20)	6/26(金)～9/4(金)
10	10	土	対面講座 10月	7/31(金)～9/29(火)
2	21	日	オンライン講座 2月(2/21～3/7)	12/11(金)～2/19(金)

※詳細は、琵琶湖博物館 HP をご覧ください。

■ギャラリー展「滋賀県立琵琶湖博物館 30 周年記念ギャラリー展示『民俗学者 橋本鉄男がみた近江ー滋賀民俗研究のいしずえー』について

滋賀の民俗文化を生涯にわたって見つめ続けた民俗学者・橋本鉄男。その膨大な調査資料とともに、木地師研究や琵琶湖の民俗調査など、滋賀各地での足跡をたどる展示です。未公開資料や写真、民俗文化財を通して、滋賀のくらしと文化の奥深さをごゆっくり感じていただけます。

期間は、2026 年 3 月 17 日(火) ～ 2026 年 5 月 24 日(日)です。ぜひ、ご覧下さい。

■はしかけグループ解散のお知らせ

2026 年 2 月、「近江 巡礼の歴史勉強会」と「海浜植物守りたい」の 2 グループについて、解散が承認されましたのでお知らせします。

「近江 巡礼の歴史勉強会」は 2017 年 3 月に活動を開始し、近江の巡礼に関する「甲賀准四国八十八カ所」に関連した調査活動を通じて、多くの成果を残されました。

「海浜植物守りたい」は 2019 年 4 月に活動を開始し、彦根市新海浜を拠点に、貴重な海浜植物の保護活動に尽力されました。

両グループは、はしかけとしての活動は終了しますが、テーマや形を変えて今後も活動を続けられるとうかがっています。これまでのご尽力に深く感謝するとともに、今後のさらなるご活躍をお祈りいたします。

(太尾田 康生)

2. はしかけグループの活動報告と活動予定



(1) うおの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 44 名】

グループ担当職員: 田畑 諒一、川瀬 成吾

【活動報告】

■2 月 15 日(日) ビワマスフォーラム in 野洲に参加 場所: コミュニティセンターなかさと 参加者: 19 名

勉強会として野洲市で行われたビワマスフォーラムに参加し、家棟川や各地の保全活動、ビワマスの生態などについて学びました。

■3 月 29 日(日) 総会、勉強会 場所: 琵琶湖博物館セミナー室 参加者: 25 名

恒例の年度総会が行われ、2025 年度活動の報告、次年度計画と役員の承認が行われました。今年度の定例調査での総採捕尾数は 1537 尾、そしてうおの会会員数はついに 100 名を越え 108 名となりました。2026 年度もたくさん採ってデータを集めましょう。なお次年度の総会は、博物館への諸報告への対応から、時期を早めて第二日曜日(2027 年 3 月 14 日)に開催することにしました。

後半は勉強会として、藤岡さんより、ビワマスの学名決定の経緯について詳細な解説をして頂きました。江戸末期の本草学から解き起こし、明治以降の近代分類学の進展、この中で起きた種と学名、和名の対応の混乱、その整理を多くの研究者が試みるも決定に至らなかったことと、その原因、などを熱弁頂きました。学名の決定というものがいかに大変な作業か、垣間見た思いです。

学名が付いたからこれで終わりではなく、まだまだビワマスには謎が残っている、さらにはうおの会で出会う身近な種にもいまだ学名が未決定のものがある、とのお話が印象的でした。種が増えて分らん！覚えられん！とぼやくばかりでなく、学名のこと少しは意識して調査を進めない、と思った勉強会でした。

■今後の予定

4 月以降は総会で承認された計画に沿って活動します。詳細はそれぞれの活動前にメールにてご連絡します。

(文責: 中尾博行)



(2) 淡海スケッチの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 9名】

グループ担当職員: 榎永 一宏

【活動報告】

■ 2026年 2月 22日(日) 琵琶湖博物館 参加者 5名

オープンラボでスケッチ。
博物館敷地で吟行句会もしました。

■ 2026年 3月 22日(日) 琵琶湖博物館 参加者 4名

オープンラボでスケッチ。博物館敷地で吟行句会もしました。

【活動予定】

○ 2026年 4月 26日(日) 琵琶湖博物館
各々、館内でスケッチを行います。俳句をされる人は敷地内で吟行。後にオープンラボで句会を行います。

活動時間 10時30分～(16時)

○ 2026年 5月 24日(日) 琵琶湖博物館
オープンラボや敷地内でスケッチや吟行を行い、午後は句会も予定しています。

活動時間 10時30分～(16時)

※持ち物/スケッチブック、鉛筆、水彩絵の具等、スケッチの道具。
俳句をされる方は、それぞれ吟行に必要なものをお持ちください。

○博物館 de 俳句

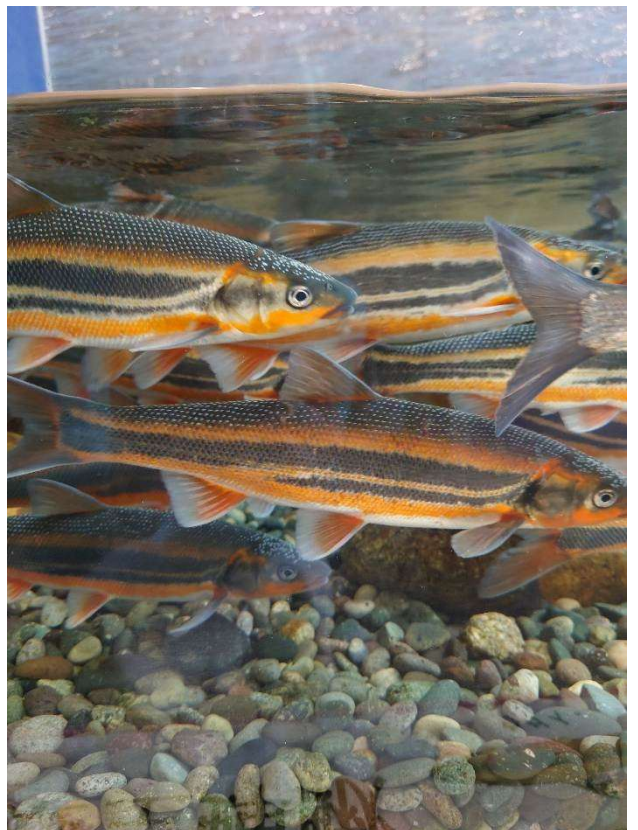
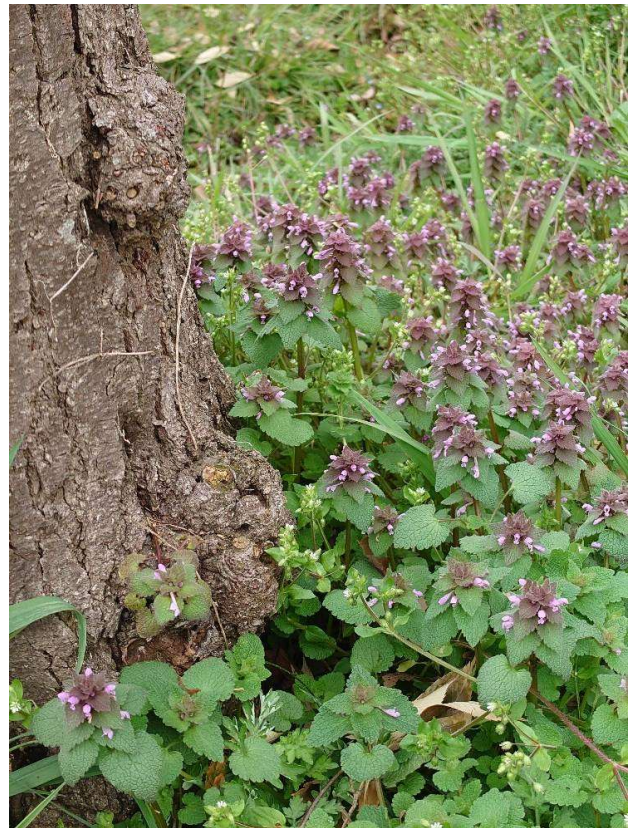
2月22日 大鯰句会

バイク音に端からくずれ鴨の陣	稚鮎
金黒羽白名前見たままつけられて	巳刻
鴨の陣へやり直すため引き返す	諸子
蔭の道掃かれてゐたる紅椿	桜子

3月22日 大鯰句会

駅前のクレーンせわしき春の空	稚鮎
鳥飛んで休耕の田に滑り降り	巳刻
夏羽の兆すやよひの百合鷗	桜子

☆ 右の写真は婚姻色のあざやかなウグイ。





(3) 近江はたおり探検隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 19名】

グループ担当職員:大久保 実香

【活動報告】

<織姫の会>

■1月31日(土) 参加者:6名

びわ博フェスで残った材料消費のため、ストラップ作り。しばらくやらないうちにやり方を忘れてしまって、思い出すのに時間がかかりました。

■2月11日(水・祝) 参加者:2名

前回同様、材料消費。今回はクルミの樹皮を使って小さなカゴを作りました。

■2月28日(土) 参加者:4名

樹皮がかなり消費できたので、体験用にいただいた毛糸の消費を考えています。卓上機があるので、糸をかけてみることにしました。まず、ある糸と箆(オサ)の本数を数えてデザインを考えることから始めます。

■3月11日(水) 参加者:7名

今回は今までにやったワークショップから「カード織り」と「ニヤンドウティ」をやりたいメンバーがいたので、やってもらいました。数年たっているもので、すっかり忘れてしまって、マニュアルを見ながらみんなであーだこーだ言いながらの作業になりました。

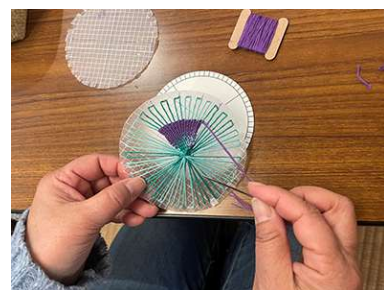
【活動予定】

■織姫の会

3月28日(土)、4月11日(土)、22日(水)、5月9日(土)、20日(水)、
6月10日(水)、27日(土)、7月18日(土)、29日(水)



3月11日カード織り



3月11日ニヤンドウティ

(文責:辻川智代)



(4) 大津の岩石調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 14名】

グループ担当職員:里口 保文

【活動報告】

■2026年2月の活動

○第40回地学研究発表会に出席 大津の岩石調査隊5名
2月15日(日)13:30~17:00

地学に関する幅広い研究発表を聴講し、興味深い内容ばかりで大変勉強になった。
今後、岩石調査隊からも発表できるような研究を目指していきたい

■2026年3月の活動

○【わくわく探検隊】に使う岩石の採取
大津の岩石調査隊5名 びわたん2名
3月5日(木)10:00~12:00 多賀町佐目 犬上川右岸

岩石標本箱に入る大きさの石灰岩とチャート各30個程と、砂岩数個を採取した。
その他特徴のある岩石観察をした。(いずれも転石)

- ①直径10cm以上の方解石結晶。採取した石灰岩に化石は見つからず、熱変成を受けたことを確認した。
 - ②アルカリ長石が濃いサーモンピンク色の大きな斑晶を持つ花崗岩斑岩を見つけた。後日、犬上花崗岩斑岩と同定した。
 - ③多くの岩片を含み複雑な模様で、割れにくく流紋岩のように見える礫岩を見つけた。
- 石灰岩とチャートの露頭も見られた。
左岸に佐目風穴という景勝地もあるが、川の増水の為に渡れなかった。
今回観察した礫岩の洞模様に着目した隊員もいたが、持ち帰り観察できなかった事が悔やまれる。
石との出会いも一期一会。機会があれば風穴見学も兼ねてまた訪れたい。

○体験学習プログラム【わくわく探検隊】「岩石標本箱をつくろう！」

大津の岩石調査隊4名 びわたん9名 参加者:大人9名、小中学生9名、未就学児3名

3月14日(土)10:30~15:00 琵琶湖博物館 実習室2

目的:岩石にはいろいろな形・色があることに気づき、違いをよく見て分けてみる。岩石のでき方、場所によって岩石の違いがあることを知る。

去年に続き「岩石標本箱をつくろう！」のプログラムを行った。

参加者は未就園児から小学生高学年のお子さんと保護者の親子参加が多かった。

去年に比べ、子供も保護者の方も岩石にある程度の知識があり興味津々な方が多く、質問をされる事場面が多かった。

岩石調査隊に入りたいと入会方法を質問される方もいて、岩石好きな人が多いのだと嬉しく感じた。

今後も石を触ったり観察することによって、沢山の方々に興味をもってもらえるような活動にも力をいれていきたい。

■今後の活動予定

- 新活動方針の打ち合わせ 4月
- 野外調査 5月
- 野外調査 6月
- 勉強会 7月
- 勉強会 8月
- 野外調査 9月
- びわ博フェスに参加 10か11月
- 勉強会 12月
- 岩石持ち寄り情報交換会 1月
- 新年度活動計画についての会議 地学発表会
- わくわく探検隊 2月13日(土)



(5) 温故写新

【活動報告日の活動会員数(のべ) 7名】

グループ担当職員:金尾 滋史、加藤 秀雄

【活動報告】

- 活動日 2月28日(土)
- 参加者 7名
- 活動内容 写真教室

金尾学芸員から写真撮影の基本から応用まで教えていただきました。

はじめに、びわこのちからチャンネル「展示の撮り方」を参加者で視聴しました。金尾学芸員は、この番組の中で展示の撮り方やフォトスポットを紹介されており、補足説明を聞きながら楽しく視聴させていただきました。

その後、参加者からカメラや撮影技術について日頃疑問に思っていることを意見交換し、個々の質問については金尾学芸員からわかりやすく教えていただきました。

たいへん有意義な時間となりました。

※次回活動予定

3月29日(日) 10:00~ 琵琶湖博物館

内容: 総会「今年度のふりかえりと来年度の活動計画」



(6) 暮らしをつづる会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ担当職員:大久保 実香

【活動報告】

2月、3月の活動はありませんでした。

【活動予定】

地域の人に話を聞いてまとめてみたい、自分史を書いてみたいなどのご関心がある方は、担当学芸員までご連絡ください。

(大久保)



(7) 古琵琶湖発掘調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 20名】

グループ担当職員:半田 直人

【活動報告】

■咽頭歯化石の勉強会

日時:1月31日(土)13:00~16:00

場所:琵琶湖博物館実習室1

令和8年2月の活動で中島経夫先生にご指導いただきながら咽頭歯化石の同定作業を行う予定であったため、事前に会員のみで咽頭歯化石の同定作業を試みました。実際に咽頭歯化石を観察すると、一部が欠けていたり、同定のポイントとなる箇所が擦れてははっきり見えなかったりなど、同定作業は難航しました。ただ、粘り強く観察することで、咽頭歯化石の特徴を深く知ることが出来ました。今後も定期的に咽頭歯化石の同定作業を行っていききたいと思います。



■咽頭歯化石の同定作業

日時:2月22日(日)13:30~16:00

場所:琵琶湖博物館実習室1

中島経夫先生をお招きし、先生にご指導いただきながら、咽頭歯化石の同定作業を行いました。油粘土を用い、咽頭歯化石を固定させて観察する方法など、私たち会員では思いつかなかった観察方法や同定作業の手順を教えてくださいました。他にも咽頭歯化石の標本目録の作成方法など、多くのことを学ぶことが出来ました。



■古琵琶湖発掘調査隊総会

日時:3月25日(日)13:30~16:00

場所:琵琶湖博物館会議室1

令和7年度の活動の振り返りおよび令和8年度の活動計画を会員の皆さんと話し合いました。今年度は化石の発掘位置を座標として記録し、航空写真等の位置図に落とすなど新しいことにもチャレンジ出来ました。また、咽頭歯化石についても、観察方法、同定の仕方について多くの知識・経験を得ることが出来ました。令和8年度の活動計画では、野洲川や愛知川をフィールドワークの中心としつつ、様々な勉強会を開催し、古琵琶湖層群に関する知識をより一層身に着けていきたいと思っています。

【活動予定】

■4月26日(日)13:00~16:00

野洲川での地層の観察・発掘調査



(8) 里山の会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 13名】

グループ担当職員:奥田 岬

【活動報告】

■2月14日(土) お楽しみ会 会員4名

日頃の里山の会の活動では、ふりかえりの時間があまりとれないこともあり、参加できるメンバーで、生活実験工房で雑談をしました。

イベントでは、企画の目的と参加者の満足(充足感)のために進めていきますが、タイムスケジュールに追われて簡略化して「大切なこと」がおざなりになりがちですね。里山体験教室(だけでなく自然体験)では、「今」も大切ですが、「その次」への期待をお土産として持って帰ってもらい、里山(自然)への関心と興味を参加者へ委ねることができればと思います。そのようなイベントは、継続していく意味がありますね。

里山の四季をつながりとして体験し、活動の魅力と参加者を増やす工夫などについて雑談をしました。里山の会の皆様には、雑談メモを総会で資料としてお配りしました。時が進んでも、新しいメンバーも加わり、同じように里山からのメッセージを楽しみながら分かち合う、集いが続きますように。

お楽しみ会のお楽しみとして、平野神社風あぶり餅をつくってみんなで食べました。

P.S.

- ・夏に開催のライト版里山体験教室もしくはびわ博フェスで、竹の節を使った鳴り子づくりの提案をしました
- ・里山(里山の会)のPR資料を作成しましょう。



■3月7日(土) 総会・あぶり餅づくり 会員9名

生活実験工房にて年に一度の総会を行いました。今年度のはしかけでの活動を振り返るとともに、来年度の活動内容について話し合いました。毎年好評なイベントの継続はもちろんのこと、こんなことがしてみたい、こんな植物を育ててみたいといった意見が活発に出されました。里山の会の会員同士はもちろん、他のはしかけのみなさんなど様々な人と関わって活動できれば良いなと思います。

午後からはあぶり餅づくりを行いました。餅を竹で作った串に刺し、炭火であぶりました。餅を串に刺す際にはうまくできないこともあり少し苦労しましたが、じっくりあぶられる餅をみるのも面白かったです。

また、最後に会員による館内の植物観察を行いました。「開館工事の際には裸地であった場所にもこんなに高く木が成長していることに驚いた」、「このコウヨウザンという樹は初めて知った」などそれぞれに新しい発見がありました。



【今後の活動予定】

- 4月11日(土) 春の里山体験教室 下見
- 4月19日(日) 春の里山体験教室 本番
- 5月30日(土) お楽しみ会(草餅づくり)



(9) 植物観察の会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 4名】

グループ担当職員: 芦谷 美奈子

この冬は、例年通りの寒さで、私の住む三重県北部では13cm位の積雪が数回あった。その後、2月末頃から暖くなり、3月6日頃から寒の戻り…、という感じだった。今年のセツブンソウ、フクジュソウは、米原では2月23日でちょうど開花、藤原岳麓の観察の森では2月27日にフクジュソウはちょうど開花となったが、セツブンソウはほとんどがすでに結実していた。甲賀市のユキワリイチゲは、3月18日ですでに満開だった。

【活動報告】

■2月 1日(日) 例年2月、8月はお休み

参加者0名

■3月 1日(日) 今年度のまとめ、来年度の計画「持ち寄りの観察」

博物館 大人のディスカバリー内ラボ 10:00~12:00 すぎ 参加者4名



来年度は、今までなかなか見られなかった植物の花の咲く時期(クロバイは5月、ケンポナシは6月)に合わせて、場所と時期を決めた。また、ネットなどで見た実験をやってみようという要望もあり、暑くて外に出られない時期に実験室を借りられるようにしてみた。

この日は、久しぶりのラボで、画像を画面に映し出すのに手間取ってしまい、じっくり見る時間が少なかった。

まず、メンバーが持参したマンサクの花を見た。以前から花卉の付き方が不思議で、写真を撮っても花卉がどこからどう付いているのかが不明だった。よその木から花を採って見るわけにはいかないし、シナマンサクでは花卉が太くて何かが違うし…。やっと拡大して見られた！ えっ！？ 萼片の隙間に合わせたように1枚の細長い花卉が出ていて、雄しべは花卉と花卉の間にある。図鑑で調べてもこれで合っているようだ。こんな構造の花もあるんだと、改めて感心した。帰宅後、メンバーから、萼片と同じ所に花卉が付くものもあるらしい、と聞き、また花を全部？一つ一つ見たくなる沼にはまってしまった。



次に、ミツマタの花。拡大したら、蕾や花の外側全体が絹のような細いきらきらの毛に包まれていて、ビックリ。ちょうど後ろに置いてあるキツネの剥製(画像の左端)の毛とマッチしている？ まだ花が開ききっていないため、あまり匂いはしない(満開になるといい匂いらしい)。時間切れで、分解することは叶わず、分解はまた来年。

このメンバーの方は、ご自宅に沢山の木の苗などを植えてみえて、咲いたらそのまま直ぐに観察できるように、羨ましいかぎりだ。そのお庭で季節ごとに観察会ができそうだ。

観察できなかったカツラの枝は、もらって帰り、みんなで自宅観察することになった。

【今後の活動】

- 月に1回、第1日曜日の午前または午後を予定しています。
- 外部へのお出かけの場合は、これに限らず、変則的になります。
基本的には、危険が無く雨でも歩ける所で、大雨や警報が出ない限り「行方」方向でいます。
- 8月、2月は、例年お休みしています
- 4月 5日(日)「博物館周辺の観察」10:00~12:00 すぎ 雨天の場合は「持ち寄りの観察」
- 5月 3日(日) お出かけ観察「クロバイの花を見よう」 瀬田公園 9:30~12:00 すぎ 小雨決行
- ※新型コロナウイルス、インフルエンザ等の感染拡大等によっては、お休みになることがあります



(10) たんさいぼうの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 10名】

グループ担当職員: 大塚 泰介(影の会長)

【活動報告】

たんさいぼうの会 HP を立ち上げました。

<https://tansaibou-no-kajimodofree.com/>

実際には1月初めにはできていたのですが、利用している無料ホームページが、テストサイトに仮アップしてから修正することができない仕様になっているので、会員の確認・修正が終わるまで秘密にしていたのです。これからもどんどん増補していきます。

会員の安達さんは、自宅近くの堅田内湖で、ヨシの茎に付着する珪藻の調査を2023年から毎月続けています。研究を始めて間もなく、サンプルの中からバイオリン型をした見慣れない珪藻を見つけました。これは後に、中国から2017年に新種報告された *Sellaphora constricta* であることがわかりました。日本方報告がない種で、おそらく外来種です。同時期に同種の珪藻が九州の多くの河川でも見つかったので、現在、共著で報告の準備を進めています。投稿まであと少し、夏までに出版できるかな？

他にも野田沼・曾根沼(彦根市)の珪藻、瀬田公園(大津市)の珪藻など「たんさいぼうの小さな旅」で採集してきた珪藻の報告や、堅田内湖(大津市)、千種川(兵庫県)、黒沢湿原(徳島県)の珪藻研究も、少しずつですが進めています。

【活動予定】

おそらくこのニューズレターの出版時にはもう終わっていると思いますが、たんさいぼうの会第81回総会を、琵琶湖博物館研究交流室で4月5日(日)13:30~15:30に開催します。天気が良ければ、終了後に花見に行きます。



(11) 田んぼの生きもの調査グループ 【活動報告日の活動会員数(のべ) 8名】

グループ担当職員: 鈴木 隆仁

三寒四温というにはあまりにも寒い日が続きましたが、ようやく春らしくなってきました。

山川代表のおうちのサクラノボの木は、3月15日現在花盛りだそうです。この冬は雨が少なく、琵琶湖の水位が下がり全国的にも水不足となりました。この乾燥は休眠中のエビ類の卵にどのような影響を与えるのでしょうか。もともと古代生物の生き残りといわれる大型鰓脚類や雑草の類は、孵化や発芽の条件がそろっても一斉に発生はしません。常に全体の何パーセントかは休眠を続けます。この冬の乾燥で発生に影響があるのか、注目です。

さて、暖かくなってきたことに合わせ、冬眠中だった私たちグループも行動開始です。

【活動報告】

・3月15日 総会 出席8名

新入会員の紹介と2025年度の活動報告書の確認をするとともに、田んぼの調査空白メッシュや長期間調査が行われていないメッシュを確認しました。これまでは未調査メッシュの調査が主体でしたが、前回調査から20年以上たったメッシュもあり、エビ類の生息状況の変化ということも重要な課題であることが確認されました。2026年度は調査空白地域の調査とともに、長年調査されていない地域の再調査も行うことになりました。

【活動予定】

・4月中に山川代表が調査場所の下見をします。

4月に会員にメールを送り5月、6月の調査日程及び調査場所を決定します。

5月10日に準備会を行い、採集瓶、調査票、GPSを配布します。

(石井千津)



(12) ちこあそ 【活動報告日の活動会員数(のべ) 6名】

グループ担当職員: 中村 久美子

※一般参加は、びわ博ホームページからのオンライン予約制です。また10時から14時までの一日の活動としています。(お子さんの様子に合わせて、いつ来ても、いつ帰ってもOKです。)

【活動報告】

◆1月の活動 1/28(水)9組(幼児13名、大人11名)

いつもの第3水曜日は博物館休館日のため、第4水曜日に実施しました。落ち葉の下にはもうフキが芽を出していました。こんなに寒いのにもう自然は春を感じているのですね。一方、冬眠中のヤノナミガタチビタマムシやアサギマダラなど昆虫も観察できました。ホワイトビーチに出かけると、広い砂場で子どもたちは走り回り、やはり子どもは風の子という様子でした。晴れたり曇ったり、みぞれが降ったりと、目まぐるしく天気に変化する寒—い日でしたが、ホクホクの焼き芋で温まりました。

◆2月の活動 2/18(水)7組(幼児11名、大人9名)

自然は春へ向かうようですが、まだまだ寒い2月の晴れ、生活実験工房に親子が集ってくださりました。ある子の「竹が欲しい」(鹿おどしが作りたいらしい)から、竹遊びが始まりました。バンダナおじさんにマダケを切ってもらって、いろんな長さに切ります。その竹を叩くといろんな音がします。カンカン、ポコポコ、演奏会。ちょうど良い長さの竹は刀になって、男の子は侍に変身。バンダナおじさんの竹笛も出てきて、竹って楽しいねの時間でした。

冬の畑を掘り返しました。秋のサツマイモは不作でしたが、キクイモは豊作。掘れば掘るほどキクイモが出てきます。たくさん掘って土を洗って、「スライスして油で揚げると美味しいよ」とお料理上手なバンダナおじさんに教えてもらいました。キクイモチップが大好評のようです。

◆3月の活動 3/18(水)12組(幼児16名、大人16名)

工房前の畦で「つくし見つけたよ」との声。しかし数本だけ。バンダナおじさんに聞くと「博物館前の原っぱに行くといいよ」と教えてもらって、みんなでつくし摘みに。みんなでお散歩しながら原っぱへ行くと、いっぱい生えていました。初めてつくしを知った子どもも、久しぶりにつくしを見たお母さんらも、うれしそうにつくしを摘みます。べっちゃんさんから、茅原のカヤネズミについても教えてもらい、烏丸半島の貴重な自然を楽しみました。

まだまだ冷える日でしたが、子どもたちはガチャコンポンプとホースで水遊び。見ている大人の方が水を見て冷えるのですが、子どもたちはへっちゃら。キャッキヤとはしゃぎながら水と戯れています。子どもたちの好奇心と楽しむ力に元気をもらいました。

◆自然保育学会で、ちこあその活動を紹介しました！ 2026年2月28日-3月1日 神奈川県鶴見大学短期大学部

はしかけ代表のまっちゃ(池田)が日本自然保育学会第10回大会「自然、まち、地域から地球へつながる自然保育」の自然保育情報交換会にて、ちこあその活動をポスター発表しました。ちこあその体験を深める絵本について紹介したところ、とても好評でした。

◆ちこあその絵本をプレゼントしています

ちこあそで、自分で作るスタンプカードがあります。3回スタンプがたまると、ちこあその絵本がもらえます。お家で絵本を読んで、室内でもちこあそを思い出して欲しいとの思いです。ぜひ3回来てください。



1月火吹き竹でフーフー



1月工房裏の森たんけん



1月ホワイトビーチ



2月お尻で竹を押さえてね



2月キクイモたくさん収穫



3月原っぱヘレッツゴー



3月つくしたくさん



3月つくし摘み

今回のちこあその報告は、代表の池田勝(まっちゃ)が担当しました。

【今後の活動予定】びわ博ホームページで1か月前から参加予約ができます。8月はお休みです。

活動月	実施日、時間	タイトル	内容
4月	4月15日(水) 10:00-14:00	ちこあそ4月	定員10組 予約制です。びわ博イベントHPからお申し込みください。 毎月おおよそ第3水曜日に行っています。
5月	5月20日(水) 10:00-14:00	ちこあそ5月	ルーペでの自然観察、森の探検、ガチャコンポンプの水遊びなど やさしい自然遊びを子どもや保護者の方とゆったり、ポチポチ過ごします。

はしかけの新しいメンバーも飛び入りも大募集中です。一緒に子ども達と遊びましょう！

がいて、皆どうかな？と聞いてみると、色々な意見が出てきて、またまたびっくり(@_@;) 今日初めて出会った者同士で学び合う姿に感動してしまいました。

分類したら自分用岩石を3種選んでもらいます。同じ花崗岩でも、形や色、粒の大きさも違うのでじっくり選んでいました。選んだら岩石のでき方を調査隊の皆さんから聞き、ワークシートを完成させます。鋭い質問をする子どももいたそうです。

そして、標本箱を作り完成です。最後に岩石調査隊のみなさんにインタビュータイム。活動で楽しいこと、きっかけ、目標など。博物館は展示を観る、イベントに参加するだけじゃない活動があることを知ってもらえたらと思います。



ほねほねくらぶ

(15) ほねほねくらぶ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 13名】

グループ担当職員:半田 直人、松岡 由子

【活動報告】

■2月14日(土) 参加者3:名

カミツキガメの徐肉、キツネの組み立て、を行いました。

■2月28日(土) 参加者:6名

マンガースの解剖、タヌキの解剖、タヌキの徐肉、キツネの組み立てを行いました。

■3月14日(土) 参加者:2名

鳥の仮剥製の制作、キツネの組み立てを行いました。

■3月29日(日) 参加者:2名

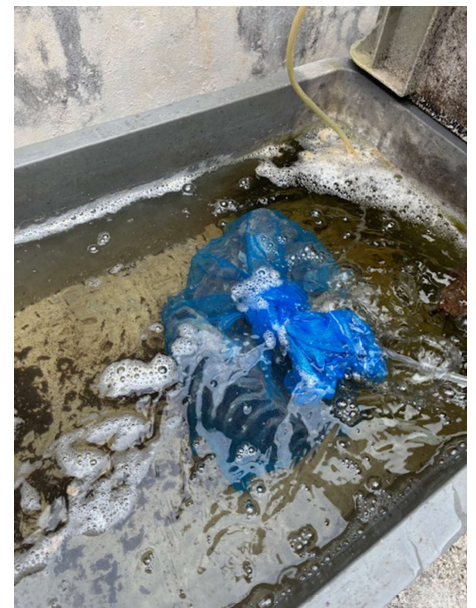
鳥の仮剥製の制作、タヌキの徐肉、を行いました。

この日の活動で、タヌキの徐肉が完了したので、腐敗させるために、パーツ事にネットに入れてひとまとめにしたものを、博物館の一角にお借りしている水浸け場に持っていきました。

この日は気温も暖かくなってきておりましたが、これからどんどんと季節が進むにつれて気温も上がっていくので、腐敗が進みやすくなり、標本を作るのも進めやすくなるので、これからどんどんと骨にして行きたいなと思います。

【活動予定】

4月、5月の活動予定日は現在未定ですが、月に2、3回の活動を予定しております。



▲腐敗させるために水に浸け始めたタヌキの骨の様子



【活動報告】

■2月23日(月) 参加者: 8名

活動内容:MP ソープ作り(琵琶湖博物館 実習室2)

2月は毎年廃油石鹸を作っていました。今年度はMP ソープ作りを行いました。MP ソープの「MP」とは、Melt(溶かす)とPour(注ぐ)の頭文字です。透明のものや色付きのものがあり、カットして電子レンジで溶かして、精油やハーブ等を入れてオリジナルの石鹸を作ることができます。MP ソープ作りだけだと物足りないので、今回は、無添加の市販の石鹸を削り、ハーブの浸出液とはちみつを入れて、練ってから成形する練り石鹸も作りました。

午前中は、練り石鹸作りから始めました。無添加の石鹸は、硬いものだと削りにくいので、事前に担当のメンバーが削ってみて、簡単に削れるものを選びました。またハーブの浸出液は、ドライにしたラベンダーとヨモギの2種類を作りました。

午後からは、MP ソープ作りにとりかかりました。博物館にあるアンモナイトや三葉虫、琵琶湖の型を使わせて頂きました。とても素敵な石鹸ができたので、習得したメンバーには、今後イベントなどで活用してほしいと思います。

【参加者の感想】

・今回の石鹸作りは、手軽に作れるけれど奥の深いものでした。MP ソープは固まるのが早く、グラデーションにするのもコツがいりました。

・おむすび型、三葉虫型、小さな動物型、沢山作れて楽しかったです。

・MP ソープは大人のワークショップといった感じで楽しかったです。ハーブをあしらった無添加石鹸とコーヒースクラブ石鹸は肌に優しそうです。

・2タイプの石鹸作り、どちらも廃油石鹸とはまた違った工夫の楽しさがあり、使い心地が楽しみです。

・石鹸を削って石鹸に生まれ変わるなんて、なんだか面白いです。

・廃油石鹸とはまた違う趣向で楽しく作れました。色づくりに夢中になり精油を入れ忘れるというハプニングもありました。

・あまりイメージできていないままでしたが、動画や本を用意していただいたので色々挑戦することが出来ました。

難しそうなおブドウ石鹸が作れてびっくりです。大切に飾って…いつかは使ってみたいです。



■3月1日(日) 参加者: 8名

活動内容:年度末総会(琵琶湖博物館 研究交流室)

来年度の計画を立てました。改めて緑のくすり箱の参加資格を共有しました。

(参加資格)

①必ず何か1つ活動の担当を担うこと

②年会費を支払うこと(1000円)

この2つを必ず守ってほしいということをお伝えしました。

ただ楽しいワークショップに参加できるからメンバーに入るのではなく、1人1人が研究したいことに対して意欲をもって参加するグループだと考えてほしいです。

また総会で、藍の種を配布しました。苗を育てて頂ける方、よろしく願いいたします。

【活動予定】

・4月25日(土)10:00~15:00 藍の定植(生活実験工房)と野草茶を楽しむ



(17) 虫架け

【活動報告日の活動会員数(のべ) 15名】

グループ担当職員:今田 舜介

【活動報告】

■2月14日(土)10時~12時 参加者:7名 琵琶湖博物館の動物収蔵庫

1月の虫架け活動は雪で中止になりましたが、2月は琵琶湖博物館の動物収蔵庫の見学会を行いました。セミナー室で今田学芸員による説明を受けた後、参加者全員で収蔵庫を見学しました。



■3月14日(土)10時~12時 参加者:8名 琵琶湖博物館 生活実験工房

虫架けの総会を行いました。2025年度の活動を振り返った後、2026年度の活動計画や会の運営についてみんなで話し合いました。また、2026年度の新体制も決めました。

また、「虫架け通信」88号、89号を発行し、昆虫に関する知識や各メンバーの報告を共有しました。

【活動予定】

これからも1か月に1回程度の野外調査や室内勉強会を行う予定です。観察・採集などをして、滋賀県内の昆虫の分布調査をしたいと考えています。

(文責:伊東)



(18) 森人(もりひと)

【活動報告日の活動会員数(のべ) 6名】

グループ担当職員:林 竜馬

【活動報告】

■1月24日(土) 生活実験工にてリース解体作業と会議 参加者:(会員)6名 (博物館職員)林

- ① 一昨年初めてクリスマスリースを作成し好評を得た後、保管していたものを来年度も作成したいとのことで再利用することになり解体作業をしました。飾っていたパーツを個々に外し、フジ蔓と分けそれぞれを保管しました。
 - ・2026年クリスマスシーズンに間に合うよう計画をたて準備する予定。
- ② フォレストマスター(来館者の方々に屋外展示にも足を運んでもらえるよう、植物や樹冠トレイルに関する簡単な問題を解きながら博物館全体を楽しんでもらえるように作成しています)
 - 「春号」の名称と内容検討
 - ・冬は「冬の号」としたが「春の号」とはしないのかをまず検討⇒「春号」に決定しました。
 - ・名前が決まった「ふうんとかえでちゃん」が案内します！！
- ③ はしかけ登録講座で使用する森人の紹介の説明資料や動画について、現行のままで良いかの確認
 - ・紹介文追加:屋外用「フォレストマスタークイズ」館内飾り用「クリスマスリース」、「外部観察会の実施」を追加挿入する。
 - ・動画修正などは今回行わない。
- ④ 予定に入っていた屋外展示のクズの除去作業と整備は出来なかった。



■2月28日(土) 研究交流室にて会議 参加者:(会員)5名 (博物館職員)林

- ① 来年度計画について(2026. 11月 30周年)林学芸員より次の提案がありました。
- ・来年度計画の中に古くなった野外展示看板(縄文・弥生の森)を順次リニューアルしていきたい。
(縄文弥生の森 遷移実験区 案内板含む等 状況は追って見て回る)
 - ・博物館への協力活動
 - * 5/9 びわたんプログラム協力
 - * フォレストマスター夏号(6, 7, 8月)秋号(9, 10, 11月)冬号(12, 1, 2月)作成
 - * 11月予定の琵琶フェス参加
 - * 「大きなリース作り」
 - * 縄文・弥生の森 屋外展示のクズ除去作業と整備

※日程的に余裕があれば

- ・琵琶博の周辺の樹木の「開花」「新芽」「花」「実」「紅葉」までを、メンバーで手分けして記録する。
- ・近江の古書に載っている植物について各自で研究。今後折を見て検討する時間を持つ。

② 上記①を含む来年度活動の計画を立てた。

■3月14日(土)縄文・弥生の森を含むクズ除去作業と整備 参加者:(会員)5名 (博物館職員)林

当日お天気に恵まれましたが風が冷たかった。昨年クズの除去作業では参ってしまう程の繁茂状態だったので今年も覚悟をして森に入ったが意外や意外クズは少なくなっていたのにびっくりしました。

皆さんなぜ?なぜ?の連呼! これで除去が出来たとは思えず...来年が更にひどく繁茂しないかと心配をよそに安堵感は大かった。林内には腐った木が何本もあったが男性陣に切ってもらい、太くて高い木は専門家にお任せすることにしました。細かい整備路も皆さん歩けるように除草や伐採をしました。整備した後の森は結構すっきりしたと自画自賛、その後は来年度計画予定の「古くなった野外展示看板(縄文弥生の森)リニューアル」について現物を見ながら少し話し合いをしました。

今年度最後の予定

■3月28日(土)栗東自然観察の森観察会 10:00 駐車場集合

皆様一年間の活動ご苦労様でした、来年度が更に楽しい森人活動になります様宜しくお願い致します。



(19) 琵琶湖梁山泊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 3名】

グループ担当職員:大塚 泰介

【活動報告】

2月までの唯一の会員は、相変わらず「琵琶湖の小さな生き物を観察する会」で、プランクトンや付着藻類の観察にいそんでいます。同会に集う同年代や年上の仲間とともに、自分たちが進めている研究の話で盛り上がっています。

【活動予定】

先日の登録講座で、琵琶湖梁山泊のメンバーが3人に増えました。とはいっても、全員がプランクトンに関心があって「琵琶湖の小さな生き物を観察する会」にも所属しているので、しばらくは同会に集まって情報交換を進めていくことになるでしょう。

琵琶湖梁山泊では、引き続き個人活動を継続するとともに、新規会員を大募集します。他のはしかけグループに所属して研究を進めている中高生の諸君、同年代の仲間たちと研究を進めてみませんか?特に「びわ博子ども若者研究発表交流会」で発表した皆さんや琵琶湖トラストなどの「ジュニアドクター育成塾」を卒業した高校生、研究が進展しすぎて先生の手にも負えなくなった中高部活の集団参加も歓迎します。まずは5月のはしかけ登録講座ではしかけ会員になって、はしかけ代表アドレスにご連絡を。集え梁山泊へ!

【活動報告】

■ 今のところ特に進展はありません。

【活動予定】

■ コロナ禍以前と同じような活動は進められない状況が続いていますが、興味を持ってくださる方からは継続的に声をかけていただいていますので、この状況でどのような活動展開が可能かを模索しています。



(21) 水と暮らし研究会

【活動報告】

■ 令和8年1月9日(金) 9:00-12:00 晴 参加者 6名

1. 活動先: 東近江市長町内

2. 調査内容。

今回は東近江市長町(おさちょう)集落の現状と、長町にある鋳物師集落遺産、集落を流れる愛知井(えちゆ)、および東近江市街八日市と長町を結ぶ県道 216 号線が愛知川を渡る御河辺橋(みかべばし)上から愛知川中流域の河原の状態を調査した。

3. 調査結果。

①長町の現地調査結果として。

長町は北は小池町、大清水町、東は池庄町、南から西にかけては小田苅町に接しており、集落の北を県道 13 号線、南を県道 221 号線が通っている。長町は鋳物師(いもじ)の村としての歴史は古く、愛荘町東円堂の東漸寺(とうぜんじ)に残る梵鐘に印刷されている銘文には、鋳物大工、長村道欽とあり室町時代に鑄造されたものが現存している。

ひと月前に訪問した小田苅町の八幡神社から長町に向かった。町域は比較的狭い。入り口には長神社が鎮座し、道角には大きな釣鐘のモニュメントがあり、鋳物産業で栄えた時代を思い起こさせる。長神社の拝殿は四方 10 本の円柱で拝殿を支える構造で床はセメント貼りであった。付近には近江商人であった小林一族が資産を提供した立派な公民館である「長久館」もあった。また、小田苅町との境界を愛知井が流れる。愛知井は上岸本町の愛知川右岸から取水されて各所で分水されながら愛知川右岸の耕地に給水されている。長町内にも分水施設を介して複数の水路が流れている。周辺を見渡す限り、町域の耕地面積は広くはないようだ。そのため副業であった鋳物産業の技術向上で繁栄が築けたかもしれない。現在は閉鎖されているが大きな鋳物工場が町内に存在していた。工場の看板には(株)金壽堂とあり、敷地の外側からであるが工場内は、整理整頓されていた。いつでも再開が可能のように見えた。工場入り口付近にはエクステリア用途の鋳物門扉があった。きっと安価な海外製との競争のためかは不明である。また、この辺りの集落には共通して家屋の基礎や水路の石垣、田畑の段差石垣には愛知川の河原から運んできた 20-50cm 程度の丸石が多用されている。

②愛知川中流域の流れを御河辺橋上からの状況として。

冬季の渇水期であったがしばらく続いた上流部の降雪の影響で水量は少し増えていた。下流方向の本流は左岸側に寄って流れている。右岸側の広い川幅の大半は干しあがった河原であり、角の取れた丸石が多数転がっていた。

御河辺橋の現地の橋名板には「三賀辺馬志」とも記されていて、御河辺神社(馬の銅像が祀られている)の馬信仰と関わりがあるのかも知れない。



□釣鐘モニュメント



□長神社の拝殿円柱



□長町内の分流設備



□長町内の愛知井と丸石垣



□ 鋳物工場門扉(鋳物製)



□ 元鋳物工場



□ 八千代橋からの愛知川本流



□ 河原に転がる丸石

執筆者 小篠 伸二



(22) 内湖を知ろう会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 25名】

グループ担当職員: 芦谷 美奈子

【活動報告】

■ 2026年2月13日(金) 10:00~12:30

場所: 琵琶湖博物館

参加者: 会員5人、オブザーバー2人

活動の目標を「内湖について我々がより深く調査し、それを一般の人に知ってもらう」を会員の共通認識として2026年度の事業計画書を作成することにした。そのため、「内湖ガイド」のようなものを作成するために内容を検討する。

■ 2026年3月5日(木) 10:00~12:00

場所: 近江舞子内湖 (大津市)

参加者: 会員3人、オブザーバー2人

実際に会員全員が内湖を身近に感じようということで、近江舞子内湖を訪れた。

見る、聞く、触れる、味わう、嗅ぐの五感評価や、水の透視度の調査方法を確認し、湖岸のヨシやヤナギの生育状態等を観察した。

風の強い日であったが、他には1人の釣り人とバルーンアートを持って楽しそうにしていた数人の女子学生が見られた。この釣り人に話を聞いたところ、この内湖ではニゴロブナやヘラブナが釣れるそうである。(ただし、この日は『ぼうず』であったようだ。)また、ボートを浮かべて釣りをする人はブラックバスを狙っているとのことであった。琵琶湖と流出水路、内湖との連続性がうかがわれた。

水辺に溜まったゴミを網ですくったところ、思いがけずブルーギルの幼魚が1匹一緒にとれた。

近江舞子内湖のバックには比良山系があり、対岸にはヨシの群落も見ることができ、とても良い景観を楽しむことができた。



■ 2026年3月7日(土) 10:00~13:00

場所: 琵琶湖博物館

参加者: 会員5人、オブザーバー2人

一昨日訪れた近江舞子内湖の調査結果について報告した。その後、一般の人に内湖を知ってもらい、興味を持ってもらうための情報の内容や形式をどのようにするかを協議した。

「内湖ガイド」の仕様(サイズやページのレイアウト、説明文の表現など)については、滋賀県発行の「琵琶湖ハンドブック 概要版」の「びわ湖を学ぼう」を参考に進めてゆくことにした。

■2026年3月23日(月) 10:00~12:00

場所:北之庄沢(近江八幡)

参加者:会員5人、オブザーバー2人

今回の調査を通して、課題を見つけ、他の内湖調査へと展開していくことを主な目的として訪れた。

北之庄沢は西の湖の西側にあり、手漕ぎ船での水郷めぐりのコースになっている。南側湖岸は道路も整備されていて、ウォーキング、サイクリングができる。対面には枯れた背の高いヨシが一面に広がっていた。北側の道路は内湖から離れていたことから内湖を感じることはできなかった。また釣り人などこの内湖を楽しんでいる人とは出会えなかった。

田園や八幡山などの山を望むことができ、南側では水辺まで行くことができ水の澄み具合、水鳥、ヨシなど五感で感じ、楽しむことができたという感想もあったが、他の人に勧めることができる見どころは無いとの意見もあった。前回同様、調査を行いながら周辺のゴミ拾いを行った。

今回の現地調査結果をベースに、次回活動日に課題の整理を行い、今後の活動の進め方を検討する。



【活動予定】

■4月14日(火) 今後の活動内容の検討

(文責:服部 敏之)

3. はしかけさんが活躍する琵琶湖博物館イベント情報(4月~5月)

※事前申し込みが必要なイベントもございます。また、日程、内容等変更になっている場合もございますので、必ず事前に琵琶湖博物館ホームページで詳細をご確認ください。

タイトル	内容	期日	曜日	時間	場所	備考
ちこあそ・4月 (ちっちゃな子どもの 自然遊び)	博物館の森の中でゆつくりと過ごしながら、五感で触れて、楽しんで、自然の面白さを体験する遊び場です。 4月はタケノコ見つかるかな？	2026年 4月15日	水	10時00分 ~ 14時00分	琵琶湖博物館 生活実験工房	※定員10組(先着) ※事前申込みの上、10時~14時の間でご都合のよい時間帯にお越しください。
博物館のまわりでタンポポを観察しよう！	タンポポは、春を代表する植物です。 博物館の周りでタンポポを探して、種類を見つけてみましょう。	2026年 4月18日	土	13時30分 ~ 15時00分	琵琶湖博物館 実習室2 烏丸半島芝生 広場など	※定員15名(先着、事前申込み) ※参加費100円(保険料) ※小学生以下は保護者同伴 ※雨天中止

里山体験教室 (4月、6月、10月、1月)	博物館を飛び出し、実際の里山で季節ごとの自然観察や里山遊び体験をしよう!	【第1回】 4月19日 【第2回】 6月21日 【第3回】 10月18日 【第4回】 1月17日	日	各回 10時00分～14時30分	野洲市大篠原地先	※年間4回開催分一括申込み ※定員20名(多数の場合は抽選) ※参加費100円(保険料) ※中学生以下は保護者同伴
生活実験工房 田んぼ体験 田植え	生活実験工房の水田を利用して、昔ながらの農家の暮らしや生活、農作業に触れて頂くことを目的とし、その一環として、田植え作業を体験して頂きます。	2025年 5月10日	日	10時30分～12時00分	琵琶湖博物館 生活実験工房	※長靴、着替え軍手等をご用意下さい。 ※暑さ対策をお願いします。 ※雨天中止 ※要事前申込
はしかけ登録講座 (オンライン)	琵琶湖博物館のはしかけ制度の概要を説明するとともに、はしかけ各グループの活動内容を紹介します。また、はしかけ制度への入会手続きを行います。	2026年 5月24日 ～6月7日	-	左記期間のうち任意の時間(1時間30分程度)	オンライン	※登録にはボランティア保険料350円が必要 ※要事前申込 ※14歳未満は保護者同伴

4. 生活実験工房からのお知らせ

2026年度の田んぼ体験イベントの日程が決まりました!!
今年も皆さまに楽しんでいただける時間になるよう、スタッフ一同、準備を進めてまいります。
ご家族やご友人とご一緒に、ぜひ気軽にご参加ください。
皆さまにお会いできるのを心より楽しみにしております。

【活動予定】

開催時間：10:30～12:00 (受付 10:00～)

場所：生活実験工房

- 5月10日(日) 田植え
- 7月26日(日) 昆虫採集
- 9月6日(日) 稲刈り、ハサ掛け(早稲品種)
- 10月11日(日) 稲刈り、ハサ掛け(晩稲品種)
- 12月19日(土) しめ縄づくり
- 2月7日(日) わら細工



※ご興味のある方は、琵琶湖博物館ホームページのイベント情報でご確認の上、是非お申し込みください。

<https://www.biwahaku.jp/event/observe/>

担当:環境学習・交流係

5. その他の事項

(1) はしかけグループの活動に初めて参加する場合

ニュースレター発行後、活動日・活動場所が変更になる場合があります。グループの活動に初めて参加する時は、事前に各はしかけグループの担当者に確認をお願いします。メールの場合はグループ代表アドレスまでご連絡ください。なお、グループ代表アドレスは事務局(hashi-adm@biwahaku.jp)までお問合せください。

(2) 名札(会員証)の写真について

名札(会員証)の写真を更新されたい方は、はしかけ制度担当者 hashi-adm@biwahaku.jp まで送って下さい。ただし、必ず本人確認ができるものに限りです。

(3) はしかけ会員証の携帯のお願い

はしかけ活動で来館する場合は、必ず会員証を持参してください。会員証を携帯せずに活動することはできません。

(4) はしかけ活動中に事故が起こったら

はしかけ会員は、ボランティア保険に加入する必要があります。加入時に、ボランティア保険加入カードが各自に配布されますので、活動中に事故などが発生した場合には、加入者カードに書いてある連絡先(社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会 TEL: 077-567-3920 FAX: 077-567-3923)へ、速やかに連絡してください(各人で連絡)。

なお、手続きには、グループ担当職員(学芸員)の活動証明が必要ですから連絡してください。

詳しくは、最新年度の「ボランティア保険」パンフレットをご覧ください。「ボランティア保険」のパンフレットは、はしかけ事務局(博物館事務学芸室)にも置いています。